

## 1 題材 「生活お役立ちアイテムを作ろう！」

## 2 指導観

○ 衣生活におけるわたしたちを取り巻く環境は、高価な物から安価な物まで多種多様にあり、選択の幅も広がっている。安価で手に入るということもあり「いいもの長く」という価値観が薄れつつある。また、ミシンなどの裁縫道具が家庭に揃っていないということもあり、手作りで製作したり、繕ったりすることが減っているということも事実である。生活の中で使っている布製品に不都合が起きたときに、自分で修繕したり、使い勝手のいいように工夫してオリジナルの物を作ったりする力は生活をよりよくすることにつながると考える。そこで、布製品の構造や機能、用途などを理解し、技術を生活の中で生かしていこうとする態度を育てることが必要と考える。

本題材では、身近な布製品を「生活に役立つ」という視点でみる力や、これまでに学習してきた知識や技術を使って生活に役立つ物を自分で計画、製作し、実生活にもいかしてく力を育てることをねらいとしている。学習内容としては、布製品の観察、基本縫いの復習、製作計画、製作、作品発表会などがある。このような学習を通して、基本的な縫う技能を力に身に付けさせることは意義がある。

○ 児童はこれまでに、題材「ぬって！使って！楽しい生活」（5年生）を通して、裁縫道具や手縫い、ミシンの部分の名前、使い方、そして直線縫いについて学習している。事前調査を行ったところ、約80%の児童が「裁縫は好きである」と回答している。その理由として、達成感があるから、自分でデザインできるから、気持ちがこもっているからなどが挙げられた。裁縫がすきでないと言った児童の理由としては、難しいから、めんどくさいから、不器用だから、失敗したからなどが挙げられた。また、製作したものは、ぞうきんやマスコット、クリスマスの飾りやエプロンなどがあげられた。これは家庭科の学習を元にしたと考えられる。一方で、手縫いでは35%ミシンでは64%の児童が、学習以外で裁縫したことがないと答えている。身に付けた技能を生かして、生活をよりよくしていこうとする意識は低い。また、児童にとって、実際の生活の中でボタン付けや基本縫いなど学習した内容を生かす機会は、非常に少ない。このように意識の低さと経験不足から、技能の定着は不十分であるということが実態として考えられる。そこで、本学習を通して布製品に興味を持ち、自分で裁縫する力をつけていきたいと考える。

○ 指導にあたっては、「生活に役立つ」という視点から身の回りの布製品をもう一度見直し、生活をよりよくする意識を高め、手縫いとミシンの直線縫いという基本的な縫い方の技能の定着を促すようにし、再び生活のあらゆる場面でも生かすように取り組ませていきたい。そこでまず、事前にとっておいた裁縫に関するアンケートを使って、普段の生活の中で裁縫をする機会が少ないことに気づかせ、課題をつかませる。また、家庭生活や学校生活の中での布製品の見直し活動を行い、その布製品の機能や目的、構造について調べ、用途に応じて工夫されていることに気付かせる。ここでは、身の回りの布製品を持ち寄り観察を行わせる。次に、基本的な縫い方の総復習を行わせる。その際、「目指せ三ツ星カード」を使って技能レベルの基準がわかるようにしておき、記録を記入させる。そして自分の製作計画を立てさせる。ここでは、布製品の観察を生かしたり自分の技能に合わせたりして具体的に計画を立てさせ、生活に役立つものの製作へとつなげる。また、相手意識をさらに高めるために家族のための役立つアイテムを製作させる。製作では、1時間取り組んだ後、より効率的に自分の思いを作品に表わすために手順や方法の見直しを行う。最後に、製作したものの発表会をする。製作したものの機能や目的、構造などが一目で分かる計画書と、家族からのコメントも添えて展示させる。また、自分で製作したものの反省や友達の作品から得たこととかしたりして、家庭での実践につなげる。

## 3 目標

- 家族のために生活に役立つ物を作ろうとする。
- これまでに学習した縫い方の中から目的にあった方法を選択し製作の計画を立てる。
- 目的に合った大きさや形を考え、適切な材料を選んで生活に役立つ物を製作することができる。
- 生活に役立つものとして、身近に使われている布製品の製作の仕方を理解する。

4 計画（9時間+課外） 第6学年「生活お役立ちアイテムを作ろう！」（全9時間）

関：関心・意欲・態度 創：創意・工夫 技：生活の技能 知：知識・理解

段階	配時	学習活動・内容	手立てと研究に関する手立て	評価規準〈評価方法〉
気 付 く +	1 +	1 身近な生活で使われている布製品を調べ、学習の見通しをもつ。 ・家族のために ・こんな理由で～～を作る 課外 アイテム検討 ・弟妹のための給食セット ・ウォールポケット ・ティッシュカバー ・ペットボトルケース ・クッションカバー ・棚のかくし布	○ 家庭生活を振り返る視点が分かるようなプリントを用意しておき、事前に調べ活動をさせておく。 ○ 製作するアイテム、誰のためにどんな目的で製作するのかを明確するための学習プリントを用意する。	関：家庭にある布瀬遺品について意欲的に調べている。 知：布製品を観察し、その機能性や工夫に気付くことができる。 〈学習プリントチェック〉 知：布製品を観察し、その機能性や工夫に気付くことができる。 〈発言・学習プリントチェック〉
見 通 す	2	2 基本的な縫い方の総復習 ・糸通し ・玉どめ ・玉結び ・なみ縫い ・ミシン縫い	○ 5種類の布見本を班に配布し、実際に触って丈夫さや縫い方などの特徴を確かめられるようにする。 ○ 作りたいものの見本を持ち寄り、観察することで構造を確かめ、計画に生かすことができるようにする。 ○ これまでに製作したナップザックから技能についてまとめていくことで計画にいかせるようにする。 ○ 技能をおさらいできる拡大見本を用意しておく。 ○ 技能の基準がわかるようにするために三つ星カードを用意する。 ○ 友だちと協力しながら製作を進めることができるようにグループ活動を仕組む。	知：縫い方や、裁縫道具の使い方、布の種類や特性を説明できる。 技：裁縫道具の安全な使い方ができる。 〈発言・学習プリントチェック〉 〈活動チェック〉
さ ぐ る ・ ま と め る	6	3 製作計画と製作実習をする (1) お役立ちアイテムの計画を立てる。 ・形の工夫 ・目的に応じた縫い方 ・簡単な製作手順 ・縫い代やあき口などの確認  (2) 製作実習を行う。 ① 製作 ② 計画の改善 ・縫い方・布の選択 ・大きさ ③ 仕上げ (3) お役立ちアイテム作品完成発表会を行う。 ・用途に合った縫い方 ・相手に合わせたデザイン	○ 手縫い・ミシンぬい両方があることを条件とする。 ○ 出来上がりのイメージを持つことが出来るように色見本、見本などを用意する。 ○ 見本にしたい物が有れば各自で用意させる。 ○ 製作手順やそれに応じた準備物が段階的に示せるような学習プリントを用意する。 ○ 無駄なく作業が出来るようミシンコーナーと手縫いコーナーを設ける。 ○ 試しながら製作できるように前時に学習した練習布や試し布を用意する。 ○ お役立ちアイテム計画書に自分の作品の特徴をまとめたアピールカードと、家族、先生のコメントを添えたカードを作品を添えて置いておく。 ○ 友達の作品のよさに気付き、伝えるためのいいところみつけカードを用意する。	創技：できあがりの見通しを持って目的に応じた縫い方や簡単な製作手順などの計画が立てられる。 知：友達の作品や製作の記録から友達の作品のよいところを見つけることができる。 技：計画を見直し、自分の思いに合った方法を選択しながら製作している。 知：友達の作品や製作の記録から友達の作品のよいところを見つけることができる。 〈活動・作品分析〉 〈発言・学習プリントチェック〉
生 か す	課 外	4 家族の生活に役立つアイテム2を計画し製作をする。	○ アイテムレシピ集を作成し、意欲を高めるとともに、反省を生かしたり、友だちのいいところを取り入れながら製作できるようにする。 ○ まとめ用レポートを用意する。	関：学習したこと生かし、新たな作品を製作している。 知：友達の作品や製作の記録から友達の作品のよいところを見つけることができる。 〈レポートチェック〉

(1) 本時の指導観

児童はこれまでに、身近な生活で使われている布製品を「生活に役立つ」という視点で調べたり、その製品を観察したり、基本縫いの復習などをしたりして家族のためのアイテム製作計画を立て製作に入っている。そこで本時は、前時に製作したことを振り返り、再び製作活動を行う。そのためにまず、計画書を元に手縫いやミシン縫いなどの縫い方、大きさ、布の選び方などでうまくいかなかったことや、さらに改善できそうなことを出し合い、その解決策を話し合う。そして、その話し合ったことを取り入れたり、途中で浮かんだアイデアを試し布で試したりして改善しながら製作活動を行う。再び手が止まっている児童には見本と照らし合わせたり、グループの友達のものを見せたりしながらアドバイスをを行う。最後に計画からどこをどのようにしたら改善されていたか、実際に製作しているものを提示しながら発表させ、自己評価を行い、次時の確認をしてまとめる。

(2) 主眼

○布や縫い方の特徴をふまえ、自分の作品にもっとも良い方法を選択して縫うことができる。

- (3) 準備 ①学習プリント ②練習布 ③布見本 ④基本的縫い方の拡大 ⑤裁縫用具 ⑥ミシン  
⑦試し布 ⑧投影機・スクリーン

(4) 過程

学習活動・内容	資料・教具	手立て	形態	配時(分)
1 前時の振り返りを行い、自分の思いにより近づくように製作するための方法を考えめあての確認を行う。 ・縫い方 ・大きさ ・布の選び方 めあて 自分の思いにより近づくようにお役立ちアイテム作りをしよう！	①②③ ④⑦⑧	○計画書や見本と製作しているものを照らし合わせ、まずはうまくいかなかったことを出させる。 ○うまくいかなかったことに対する改善策を考えるために、同じものを作っている班で話し合いをさせる。 ○縫い方ではこつがつかめるように上手な子どもに実際に縫ってもらい、投影機でスクリーンに映し出す。	一斉 班 一斉	10
3 製作をする <ここで活用する知識・技能> ・なみぬい ・ミシンの直線縫い ・ゆとり <具体的な姿> ・中に入れる物の大きさや丈夫さを考え、縫い目の大きさを決めている。 ・見た目の美しさを考え、縫い目を揃えてなみぬいしている。 ・余裕をもってもの出し入れができるように試行して確かめながら形や大きさの見直しをしている	②③⑤ ⑥⑦	○製作の中で改善したりするためのイメージができるように自分の練習布や布見本を用意する。 ○試し活動ができるように布の切れ端を用意する。 ○つまづいている子どもには見本や、工夫している作品を見せながら、アドバイスをを行う。  [評価] 技：計画を見直し、自分の思いに合った方法を選択しながら製作している。<活動・作品分析>	班 個人	28
4 学習のまとめをし、次時の確認をする ・自己評価 ・片付け	①⑧	○実物を見せながらどこがどのようになったのか次時はどのようにしていきたいのかを発表させる。 ○変更点は計画書に変更した点や、新たに必要になったものなどを書き加えさせる。 ○今日の反省や次にいかせそうなことを今日の学習でまとめる。	一斉	7